

あとがき

先考の遺稿を纏めて出版したいとは思いつながら、獨力では諸事意に任せず、荏苒年を重ねていた間に、三島大人の財政的援助を受け、東洋史研究會の事業として、門下生諸氏の協力で本書が公刊されるに至つた顛末は、上巻巻頭の宮崎教授の序文に詳かにみえておりである。一年有半の歳月を費して、上下二巻、通卷一六〇〇頁におよぶ大冊がみごとに完成したこの機會に、三島大人をはじめ、宮崎、田村兩教授以下委員として直接本書の編纂に盡力を惜しまれなかつた方々、梅原博士など側面から援助を與えられた方々に對して衷心より感謝するとともに、貴重な遺物、文獻の撮影複寫、掲載を快諾された公私の各位に對しても深甚な謝意を表したい。

卷末の佛文レジюмеは、下巻の凡例にも記されているように、アンドレ・ブリュネ氏の非常な協力をえて作製されたものである。日本語に堪能な同氏の如き人の協力がなければ、これほどいきとどいた翻譯は不可能であつたにちがいない。ここに特記して、感謝の辭に代える。

もつとも身近にいながら、そのために却つて生前には先考の學問に深く留意するところが少なかつた私としては、本書の校正やレジюмеの作製、翻譯に關係している間に、はじめて先考の學問の眞髓に觸れえた感が深い。このような意味では、本書の刊行によつてもつとも大きな裨益を受けたのは、門下生の諸氏よりも寧ろ私であらう。